

結論から全体を関連づけながら読み取らせる読みの指導

福山市立手城小学校 川本忠司

1 実践の趣旨

私のこれまでの授業は、教科書教材に挙げられている目標を意識はするが、児童の実態と必ずしも合っていたかというとはなかつたように考える。また、児童が課題をもつようになった指導上の課題について明らかにしないままに授業を進めてきた。

そこで、本実践では、学力調査結果を活用・分析して児童のつまずきを把握し、児童の課題、指導上の課題を明確にして取り組むことにした。

授業プランを考えるにあたり、児童のつまずきを前学年に実施した平成21年度 標準学力検査CRT-II 三学期実施版から把握した。そして、児童の課題として正答率が低かった説明的な文章の段落ごとに要点をまとめながら読み、段落相互の関係を考えながら内容をとらえることができているかどうかをみる問題に着目した。問題については以下の通りである。

<p>オ エ ウ イ ア 星や太陽を手がかりに方向や位置を知ること。 毎年同じ時期にわたりが行われること。 冬にはエサが不足すること。 ヒナを育てるのによい季節であること。 わたりには危険がつきものであること。</p>	<p>4 自然によく適応した習性或能力に合うものを二つ選び、その記号で答えなさい。</p>	<p>【出題の趣旨】 段落ごとに要点をまとめながら読み、段落相互の関係を考えながら内容をとらえることができているかどうかをみる。</p> <p>【学習指導要領の内容・領域】 C 読むこと（第五・六学年） イ 目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること</p>
<p>平成二十一年度 標準学力検査 CRT-II 三学期実施版 小学5年国語 8 4</p>		

	正答率エ	正答率オ
全国	57%	79%
本校	53%	80%
差	-4	+1

(1) 調査結果からみる児童の課題

この問題で問われている「自然によく適応した習性或能力」が書かれている段落は結論である。そのため、この問題を解くためには文章の構成をとらえ、文章全体から読み取ることが大切である。また、「自然によく適応した習性或能力」とは、筆者の主張点であり、わたり鳥の説明を抽象したキーワードである。そのため、そのキーワードに関する具体例が述べられている段落をつなげながら読み取らなければいけない。

そこで、この調査結果からみえてきた児童の課題は、「事実と意見との関係を考えながら内容をとらえる力」と考えた。

(2) 調査結果からみる指導上の課題

この調査結果から考えられる指導上の課題としては2点ある。

- ①筆者がどのような判断や主張をしようとし、どのような事実を挙げて理由や根拠としているのかなどを区別して押さえる指導が不十分であったということ。
- ②結論にある言葉が、どの具体を抽象化しているのかを考えながら読み取る指導が不十分であったということ。
- そこで、これらの指導上の課題を改善するポイントとして、「結論から全体を関連づけながら読み取らせる」ことと考え、実践を行うこととした。

2 実践の概要

単元を構想するにあたり、指導上の課題を改善するポイントに挙げた「結論から全体を関連づけながら読み取らせる」指導上の工夫として2点考えた。

①事実（具体）と意見（抽象）を手がかりとして文章全体の構成をつかませる。

②結論にある言葉が、どの具体を抽象化しているのかを読み取らせる。

これらの指導上の工夫を取り入れ、ここでは、『生き物はつながりの中に』（光村図書6年）の教材について、「筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、交流する」言語活動と「具体化」という考える場を設定し、実践を行った。

- (1) 単元名 あなたは他も大切であるという気持ちになれますか？
～文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう～

- (2) 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
・筆者の主張に対する自分の考えをもつために、文章を読もうとしている。	・文章の構成から事実と意見との関係について、自分の考えを明確にしながら読むことができる。	・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。

「C読むこと」の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・筆者の主張について関心をもち、自分の考えをもつために文章を読もうとしている。	・筆者の考えが、どの具体例の言葉を置き換えているのか読み取っている。(ウ) ・教材の文章構成や事実と意見との関係を意識しながら、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。(オ) ・友だちの意見文との共通点や相違点から、自分の考えを広げたり、深めたりしている。(オ)	・問題提起文、筆者の考えと具体例から、文章の構成を理解している。 (イ(キ))

- (3) 手立て～結論から全体を関連づけながら読み取らせるために～

①事実（具体）と意見（抽象）を手がかりとして文章全体の構成をつかませる。

(ア)一段落の「問い」とその答えに当たる二から五段落、そしてそのまとめをしている六段落というまとまりが、具体的な内容であることをとらえさせる。

(イ) (ア) で読み取った具体的な内容をもって、筆者自身が一番主張したかった内容が、これまでの具体的な内容とは違う抽象的な言葉によって七段落に述べられているという全体の構成をとらえさせる。

②結論にある言葉が、どの具体を抽象化しているのかを読み取らせる。

(ア) 3つの具体例が書かれている段落に小見出しをつけ、3つの具体例をそれぞれまとめている六段落と比較させる。そして、筆者の抽象的な言葉の根拠となる事実の内容を読み取らせる。

(イ) 事実と意見との関係を読み取らせるために、筆者の考えにある抽象化された言葉が、どの段落の具体例の言葉を置き換えたものかをさぐらせる。そこで、「筆者が自分の考えを述べるために、3つの具体例がいるのか。」という中心発問を設定する。そして、このような疑問点を発問にすることでねらいでもある事実と意見との関係を探らざるを得なくし、思考を深めさせる。

(ウ) 事実と意見との関係を表にまとめさせ、そのつながりを判断させる。

(4) 指導の実際(全8時間)

次	学習内容(時数)	評 価				家庭学習	
		関	読	言	評価規準		評価方法
0	<ul style="list-style-type: none"> 自分にはどのようなつながりがあるのか考える。 自分以外の他も大切にすることができるのか考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> つながりから自分以外の他も大切にすることができるのか考えようとしている。 	ノート	
1	<ul style="list-style-type: none"> 『感情』、『生き物はつながりの中に』を読む。 (1) 文章と対話しながら読むことについて話し合う。 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張について関心を持ち、自分の考えをもつために文章を読もうとしている。 	行動観察 ノート	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 『あなたは他も大切であるという気持ちになれますか?～文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう～』を活動目標とする。 『感情』 <ul style="list-style-type: none"> ①文章の構成をつかむ。 ②筆者の考えと具体例との関係について読み取る。 『生き物はつながりの中に』 <ul style="list-style-type: none"> ①文章の構成をつかむ。 ②具体例に小見出しをつける。 ③筆者の主張と具体例との関係について読み取る。 活動目標について、学習したことを取り入れた意見文を書く。 自分が書いた意見文を友だちと交流する。 </div>						

二	<p>感情（２）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『感情』を読み、文章の構成をつかむ。 ・事実と意見との関係を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 結論にある言葉が、どの具体を抽象化しているのか読み取らせる。 </div>		○	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起文、筆者の考えと具体例から、文章の構成を理解している。 ・筆者の考えが、どの具体例の言葉を置き換えているのか読み取っている。 	<p>ノート</p> <p>ノート</p>	<p>文章の構成を理解させる。</p> <p>事例と意見との関係を読み取らせる。</p>
三	<p>生き物はつながりの中に（３）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『生き物はつながりの中に』を読み、文章の構成をつかむ。 ・具体例に小見出しをつけ、⑥段落と比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 筆者の抽象的な言葉の根拠となる事実の内容を読み取らせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見との関係を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 結論にある言葉が、どの具体を抽象化しているのか読み取らせる。 </div>		○	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起文、筆者の考えと具体例から、文章の構成を理解している。 ・筆者の抽象的な言葉の根拠となる事実の内容を読み取っている。 ・筆者の考えが、どの具体例の言葉を置き換えているのか読み取っている。 	<p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p>	<p>文章の構成を理解させる。</p>
四	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張に対する自分の考えを書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 教材の文章構成や事実と意見との関係を意識させる。 </div>		○	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の文章構成や事実と意見との関係を意識しながら、筆者の主張に対する自分の考えを書いている。 	意見文	
五	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた意見文を発表し、交流する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見文との共通点や相違点から、自分の考えを広げたり、深めたりしている。 	意見文	

※太枠部分が課題となる力を特に育成する時間

(5) 授業の様子

①『感情』（プレ教材）

(ア)事実と意見との関係を読み取る（3／8）

第六段落に書かれている筆者の考え（意見）がどの具体を抽象化しているのかを読み取ることで事実と意見の関係をつかませる。【逆思考の読み】

第六段落〔筆者の考え〕



第三段落〔具体例Ⅰ〕

第四段落〔具体例Ⅱ〕

- ①どんな感情も、生きていくうえで大切なもの
- ②さまざまな感情をもつことは、人生で起きるさまざまな出来事に対応する力になる。



・第六段落の①どんな感情、②さまざまな感情、さまざまな出来事というキーワードが第三、四段落のどの具体を抽象化しているのか読み取らせる。

(イ)筆者の主張に対する自分の考えを書く

- ・文章と対話しながら読み、自分の考えをもたせるために、学習後に、筆者が第6段落で読者に呼びかけている「多様な感情をもつ自分自身を認め、受け止めていきましょう。」から「認め、受け止めていく」とはどういうことなのか、自分の考えを書かせた。

私は、筆者の茂木さんが言った「多様な感情をもつ自分自身を認め、受け止める」とは、自分自身をそんなにコントロールせず、自然に生きていけばいいという意味だと思っています。

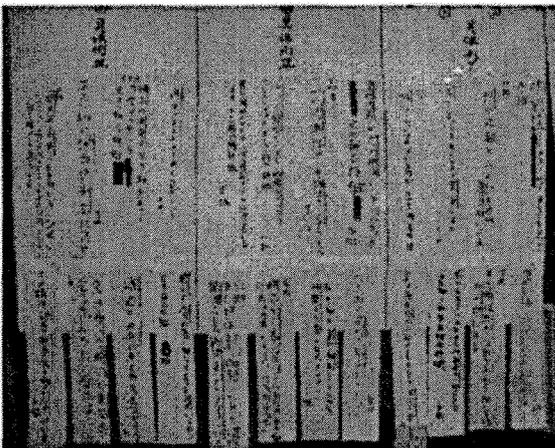
理由は二つあります。一つ目は、自分自身をコントロールすると、次は「笑う」とか決めるのではなく、「感情」というのは自然に出るからすばらしいと思うからです。二つ目は、感情を自然に表すことによって何だか私自身があれしくなるからです。不安になると、友だちがはげましてくるし、後悔をすると相談ののってくれる家族や友だちがいて、笑うと心がなごむし、楽しくなります。

このような感情は、この世になんといけないもので、生きていく上で大切なものだと勉強して分かりました。こういうことを教えてくれた茂木さんに感謝したいと思います。

②プレ教材の学習を生かしたメイン教材の活用

『生きものはつながりの中に』（メイン教材）

(ア)具体例に小見出しをつける（4／8）



段落の中心文から3つの具体例に小見出しを考えさせた。そして各班から出てきた具体例を短冊に書かせ、班ごとの比較ができるように掲示した。

【具体例Ⅰ】

- ・外から取り入れたものが自分の一部になるつながり

【具体例Ⅱ】

- ・変化・成長しながら、一つの個体として時間をこえたつながり

【具体例Ⅲ】

- ・過去や未来の生き物とのつながり

(イ) 事実と意見との関係を読み取る（6／8）

第七段落に書かれている筆者の考え（意見）がどの具体を抽象化しているのかを読み取ることで事実と意見の関係をつかませる。【逆思考の読み】

第七段落 [筆者の考え]



第二・三段落 [具体例Ⅰ]

第四段落 [具体例Ⅱ]

第五段落 [具体例Ⅲ]



- ①たったひとつのかけがえのない存在
- ②あなたは過去のすべてとつながり、未来へもつながっていく存在
- ③地球上の他の生き物ともつながっている（存在）

課題を解決する場面

T：主張の3つの主張は、それぞれどの具体例のことを言っているのか、また、その具体例が書かれているどこの文章を指しているのでしょうか。

C：筆者の主張にある「たったひとつのかけがえのない存在」は、「あなたは、今日もあなたであり、明日もあなたであり続ける」ということは、あなたはあなたというように一生を通じてつながっているということだから、具体例Ⅱの「一つの個体として時間をこえてつながっている」の文章を指しているのだと思います。

C：筆者の主張の「過去のすべてとつながり、未来へもつながっていく存在」とは、キーワードである「過去」「未来」の内容が具体例Ⅲの中に書かれているから、具体例Ⅲの「過去や未来の生き物たちとつながっている」の文章を指しているのだと思います。

C：筆者の主張にある「地球上の他の生き物ともつながっている」は、具体例Ⅰの「外から取り入れたもの」を「他の生き物」という言葉と同じ意味で使っていると思うので、具体例Ⅰの「外から取り入れたものが自分の一部になる」の文章を指しているのだと思います。

・第七段落の筆者の考えの中にある具体を置き換えたキーワードが、第二段落から第五段落までのどの具体を抽象化しているのか読み取らせる。

(ウ) 筆者の主張に対する自分の考えを書く (7/8)

・文章と対話しながら読み、自分の考えをもたせるために「あなたは他も大切であるという気持ちになれますか？」という学習のゴールに対する自分の考えを書かせた。

ぼくは、中村さんが述べる他も大切であるという気持ちに実感としてよく理解できるし、共感できます。

例えば、呼吸をするには酸素が必要です。その酸素は、森や林などの木々が作ってくれています。その森や林を作るには木を植える人も必要だし、種も必要になってきます。

このように色々な生き物とつながっていないければ今のぼくはいないので他の生き物も大切だと思いました。

私は、中村さんが述べる他も大切であるという気持ちがよく理解できるし、共感できます。

例えば、私たち子どもが親に怒られたとします。それは、親が私たちを大切にしているからです。だから、私たちが子どもが親に対して怒りを感じることは、その相手を大切にしていることが分かります。また、自分の友だちが喜んでとします。すると、私たちが友だちの喜びを感じ、いっしょに喜ぶことができます。

このように、さまざまな感情をもつことだけが大切にしていることが分かります。私たちは、たがいに大切にしたい、支え合って生きているのだと思います。

私は、他も大切であるという筆者の意見に同じ考えです。

理由は二つあります。一つ目は、虫や魚、人間などの生き物は、そこにしかないたった一人、たった一匹の唯一の存在だからです。例えば、自分は、この世の中に二人いるでしょうか。自分と全く同じ髪型で同じ体重で同じ性格の人間はいますか。みんな同じ顔、同じ身長、同じ体重、同じ性格ではないでしょう。みんな一人一人ちがうのです。怒りっぽい人もいれば、怒りつばくもない人もいます。身長の高い人もいれば身長の高い人もいます。髪が長い人もいれば、髪が短い人もいて、世の中には自分の代わりになる人などいない、かけがえのない存在で二人としていない大切な存在なのです。

二つ目は、その人、その動物の祖先が残していった大切な命だからです。例えば、あなたは自分一人で生まれてきましたか？あなたは、お母さんやお父さん、おじいちゃんやおばあちゃんがいちから生まれてきたのです。また、祖先がいたからあなたは生まれてくることができましたのです。あなたは、祖先がいなければ今のあなたはいないのです。

このように私は、この世の中には自分は二人もいない大切な存在であり、私たちの命は祖先とつながりあっている意味のある命なんだと思います。

(エ)評価テストによる検証

・単元終了後の評価テストとその結果は以下の通りである。

評価規準：結論にある言葉が、どの具体を抽象化しているのかを読んでいる。

【評価テスト：問題の本文省略】

問 天然のバルブ役ともなっていたとは、どのような事実のことをいっているのですか。合うものを一つ選び、その記号で答えなさい。

ア ブナの木が天に向かって枝葉を広げていること。

イ ブナの木の前には、さまざまな木々の落ち葉が厚く積み重なっていること

ウ 大量の雨水は、スポンジのような落ち葉の層がしっかりと受け止めていたこと

エ 落ち葉の層の下の地中にある多くのすきまに雨水がためられ、土の中を地下水となって少しずつ谷川に流れ込むこと

オ 梅雨の長雨が大量に降ったときでも、川の水かさが増えたり、はんらんしたりすることがなかったこと

太田威「ブナの森は緑のダム」(抜粋)
平成十三年度版 日本書籍「小学国語6年上」より

【解答類型】

	正答率	誤答率	無解答率
評価問題	71.1%	28.9%	0%

解答類型	ア	イ	ウ	エ	オ	無解答
割合 (%)	2.6	0	0	71.1	26.3	0

【分析】

* 選択肢オを選択している児童が誤答の中では最も多かった。それは、傍線部の「天然のバルブ役」

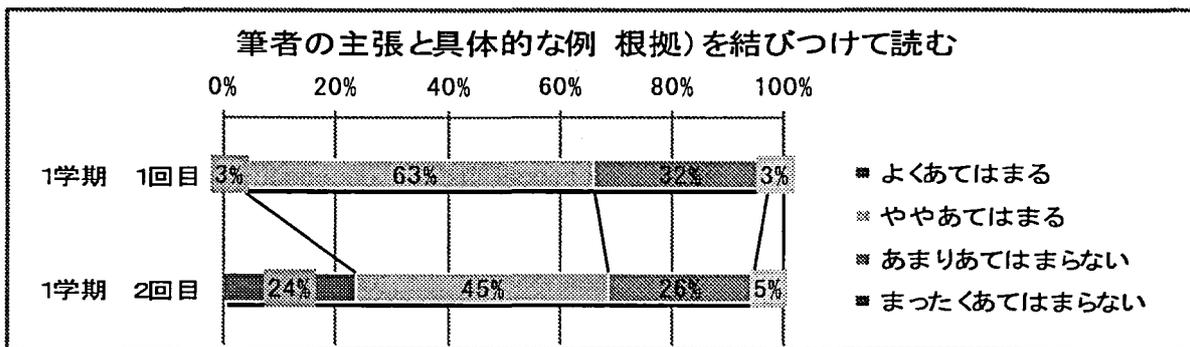
という語彙を抽象化した事例を「川の水かさが急に増えたり、はんらんしたりすることがなかったこと」ととらえたためと考えられる。

- * 選択肢エを選択した児童は、「天然のバルブ役」という語彙の説明にある「調整」の解釈を事例からすることができる。
- * 筆者の考えにつながる事例として、直前の内容を指している選択肢オではなく、その前に述べられている事例の選択肢エを選択している児童が71.1%であった。このことは、筆者の意見を解釈して事実をつなげて読むことができなければ選択することはできなかったと考える。
- * 選択肢アを選択した児童は、「ブナの木が天に向かって枝葉を広げていること」が「じょうご」のようと文中では述べられていることから、「じょうご」が調整をする役目を果たしているものと解釈したと考える。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・0次の活動を仕組むことにより、本単元の言語活動に向けての課題意識や興味・関心が形成され、活動目標自体に必然性が生じ、児童に読むことの目的を意識させながら教材を学ばせることができた
- ・抽象化した筆者の考えを具体的な言葉に置き換える「具体化」という観点を設定することにより、具体と抽象との関係から逆思考の読みをさせ、事実と意見との関係を読ませるのに有効であった。



- ・学習前、学習後の児童の意識調査を集計すると「筆者の主張と具体的な例（根拠）を結びつけて読む」ことについて、児童の肯定的評価が66%から69%に上がった。この結果から、逆思考の読み方に対する抵抗感が減った児童が増えたことが分かる。

(2) 課題

- ・抽象化された筆者の考えにつながるキーワードと具体例に共通するキーワードが入っているというだけで、筆者の考えと事例とがつながっていると読み取る児童がいた。そのため、筆者の考えの根拠になる具体例の叙述をもとに解釈させることが不十分であった。

(3) 改善点

- ・3つの筆者の考え全てを取り上げるのではなく、その中でも本時のねらいにせまることのできる筆者の考えを1つだけ取り上げ、それにつながる具体例を解釈させながら読み取る。